

■最低限のマネー教育

己を知ることが出来れば、苦勞しないのでしょうか、大半の方は自分の限界以上を求めて苦しみます。そして、苦しみが大きいほど、人は成長していくものだと思います。限界を打ち破ろうとする試みがあるからこそ新技術や新しいアイデアが生み出されていきます。

しかし、誰もが避けていることがあります。「リスクとリターンの関係」です。別に、投資のことを言っているわけではありません。私生活、仕事など、これからの人生全てのかかわることです。

そして、それらを学ぶ前に、「最低限のマネー教育」が必要です。とりあえず、「詐欺被害予防」「公金や税金の使途監視」「年金制度」は、自らが学ぶことが出来るかと思えます。詳しいことまで、例えば「一目均衡表（チャートの種類）」とか「裁定取引（先物取引みたいなもの）」など、かなり深いところまでは必要ないと思います。

小学校に通ってるお子様がいる場合は、「PTA会費」「給食費」「教材費」が適切に使われてるかどうか？を、厳正にチェックすることが大切です。

こうすることで、「公金は私的なお金ではない」ことを学ぶことが出来ます。そして、「横領や汚職（賄賂）」は悪いことであることも実践して学ぶことが出来ます。さらに、「お金がないと教材も買えない、給食も食べられない、修学旅行にもいけない」「税金がないと学校のピアノや机が買えない」ということから、脱税は悪いこと、ということも実感できると思います。

さらには、「公務員である教職員が給料にみあった仕事やサービスをしているか？」もチェックすることも大切かもしれません。

ということ、学校や教職員、業者、PTA役員などに対して、児童生徒自身が行うことで、正しいことと悪いことが、子供のころに識別できるようになるかと思えます。



著作・発行 浜松ファイナンシャルプランナーズ事務所

運用や預貯金の見直し、保険見直しをご検討中の方は**イマズグ電話無料相談（053-474-8266）**をご利用下さい。

〒433-8122 静岡県浜松市上島6-1-31 美建ビル3F
電話 053-474-8266（FAX兼用） 携帯 090-5616-1263
メール yamachan0511@ybb.ne.jp

ホームページ : <http://www.hamamatsu-fp.com/>

グーグルで「浜松 FP」と入力して

一番最初にでてくるところ。

山中崇寛 : 資産運用と保険見直しが同時にできるFP

大石ゆき : 保険見直しのスキルが身につきました！FP

<スタッフのひとりごと>

冒頭の答えですが、ライフプランです。保険見直し、資産運用、結婚、住宅購入・・・全てに共通することは、ライフプランをしっかりと考えることです。これから、使うお金は60歳以下の方は1億円以上あります（30歳の方は2億円以上）。ライフプランを考えてる人と、そうでない人とは10%以上もムダなお金を使ってしまうことになります。だから、ライフプ

ありがとう通信 2006.10 第18号

第1号から読みたいという方はご連絡ください（053-474-8266）。
当社のホームページからダウンロードできるようにしました。

浜松ファイナンシャル
プランナーズ事務所

今月のトピックス

- ・お客さまのご感想！ありがとうございます。
- ・変動金利に保険をかける（山中）
- ・食欲の秋、読書の秋、〇〇の秋（大石）
- ・究極のマネー教育（山中）

保険の見直しとは、新しく保険に入ることはありません。保険以前に〇〇を見直すことで将来にわたっていかなる状況になってもお金の困らないようにすることです。〇〇は最後に書いてあります。（山中）

■お客さまの声～ありがとうございます～

皆様からお寄せいただき、感謝の声は私たちがプロとしてFPサービスを提供し、改善し続けるために役立つとともに、この仕事をしていく上で最大のエネルギーになります。どうもありがとうございます。今回は、資産運用から2年たち、追加相談を御希望されたお客さまのお声です。どうもありがとうございます！！

先日は何度も足を運んで頂きありがとうございます。
56才の時、私も離婚し、多額の保険を見直す時期が来た。
まず、保険金の支払額の半減と60才以後の保障の充実を頂戴した。
その数ヶ月後に資産運用も、本当に良い時期だったと思います。
漠然と暮らしていた年金生活
今迄の貯蓄と年金で楽しい老後が過ごせようか？
心配で日々の生活が切り詰めていた毎日でした。そこで即決！！
山中さんに相談し今に至ります（2年経過）
必要は金額を矢張りとして、それを満たす運用を考えた頂戴しました。
うれしいです。余裕だけでなく、余裕もつかない提案だったので
「まあプロ」って感じです。
これをきっかけに生活費も見直しも出来、日々我慢する事無く楽しく
過ごしています。
一年ごとのキャッシュフローの見直しにより、より安定した生活が過ごせる事。
感謝しております。
本当にありがとうございます。

「資産運用」というと、「うちには資産がないから」と思われる方が多いです。最初っからあきらめてる人は、そのまま「縁のない話」と思っていてください。資産がないから、どのように資産を形成していくか？つまり、貯蓄を増やしつつ、日ごろ我慢することのない生活を送りたい・・・ために、どうすればいいか？という相談です。5年以上使う予定のない100万円の一時金と1万円の積立ができれば、90%以上の方は効果のある相談内容です。（山中）

住宅ローンの変動金利に保険をかける～その1～

最長35年間の全期間固定の住宅ローンが注目されています。しかし、変動金利の方が1%以上、金利が安くローンを組んだときの返済額もだいぶ違ってきます。しかし、将来金利上昇による返済額増加というリスクもしょうじてしまいます。しかし、あらかじめ準備さえしておけばローンの金利が上がっても家計は破綻しません。それどころか、逆に家計は安泰。

住宅ローンを組むときに悩む一番のポイント。それは、なんといっても、変動金利・固定金利のどちらがいいのか？ということだと思います。

低金利時代の今、そして近い将来金利上昇が見込まれる現在・・・「固定金利を選ぶ」のがセオリーかと思われておりますが、そうでもありません。

銀行やテレビのコメンテーターのことをいうのみにして、何も考えずに固定金利を選んで、後で後悔しないようにしてください。

なぜならば、住宅ローンの変動金利・固定金利はどちらが優れているというものではなく、それぞれに一長一短があります。

固定金利のメリットといえは、なんといっても**ローン**を組むときに**全期間の返済額が明確になり、将来の支出の予定を立てやすくなること**でしょう。また、**市中の金利の上昇は一切関係なくローンの金利は一定のため、返済額も変わらないということ**です。

デメリットは、変動金利に比べ当初の返済額が多くなること。東京三菱UFJ銀行の現在の金利(H18年9月)でシミュレーションしてみましょう。

●3,000万円を、35年で完済するケース

- | | |
|------------|-----------------|
| 1) 35年固定金利 | 3.22% |
| 月々の返済額 | 119,170円 |
| 2) 変動金利 | 2.375% (優遇金利なし) |
| 月々の返済額 | 105,029円 |
| 3) 変動金利 | 1.375% (通期優遇1%) |
| 月々の返済額 | 90,029円 |

上記のように、ローンを組むときに通期優遇1%の条件を得られた場合、3万円近く当初の返済額が少なくすみます。

それから、将来繰上げ返済を考えている場合も注意が必要です。例えば、40歳でローンを組み、60歳の定年時に退職金で繰り上げ返済を考えているようなケースです。固定金利は、固定期間を長く組むほど高く設定しております。例えば、先ほど同様に東京三菱UFJ銀行の現在の金利(H18年9月)は

10年固定	2.25%	15年固定	2.80%
20年固定	3.05%	35年固定	3.22%

となっております。つまり、当初から20年で完済することを目標として、35年固定金利でローンを組んでしまうと、20年固定金利と比較して、たった0.17%しか金利は違いますが、月々約3,000円、20年間で約72万円も差が出てしまいます。つまり、72万円も余分に利息を払ってしまうことになります。

変動金利のメリットといえは、**ローンを組むときの返済額が固定金利に比較して少なく済むこと**。上記のように、**優遇金利をうまく利用することで、月々約3万円も返済額を少なくすることが出来ます**。さらに、**金利が下がればさらに返済額も減ることになります**。

また、返済の途中で金利が固定金利の3.22%を超えたら、固定の方がよかったのでは？と思われるかも知れません。しかし、実際はそれまでの返済総額は、変動金利の方が低いので、金利負担は少なく元本充当額は多いので、同じ金利になったとしても、その時点ではまだ変動金利を選択していたほうが充分なメリットが出ていることになります。変動金利が一定割合にて、右肩上がりに上がったと仮定すると、固定金利の3.22%に、当初金利差である1.845%(3.22%-1.375%)分を足した、5.065%(店頭金利6.065%)になった時点ではじめて「固定金利」「変動金利」のどちらを選んで同じ負担になるというイメージですね。ただしこちらも実際は、ローン残高が減っているため、まだ同じにはなりません。

もちろん、将来のローンの金利はいつ、いくらくらいにはなるかは誰もわかりません。ということは、やっぱり変動金利を組むことは「賭け」のように思われるかも知れません。

読書の秋、芸術の秋、食欲の秋、お金のかかる秋 (^-^)



大石ゆきです。長男(9才・小四)長女(7才・小一)、次女(5才・年中)の3児の母でもあります。秋は、なんで毎年忙しいんだろう？って思う今日この頃です。

だいぶ秋らしくなってきました。子どものいる我が家では、秋は大忙しです。運動会、お祭り、七五三…。

今年は友人の結婚式もあります。秋はウエディングシーズンでもあるんですね。結婚式って、挙げるほうも招待される方も、なにかとお金がかかりますよね。結婚式に招待されたときのお祝い金は、私のように友人の結婚式に出席する場合で3万円が相場ようです。お祝金だけではなく、女性ならドレス、アクセサリー、靴、バック、美容院代など意外と出費がかさみます。

一方結婚式を挙げる側。

披露宴費用の平均は300万円前後なのだそうです(招待客70～80人の場合)。ご祝儀である程度はまかなえる場合もありますが、会場への支払いは結婚式の1週間前というところが多いので、一旦は自分たちで支払う必要があります。この一旦支払う披露宴費用、親から一時的に借りてご祝儀で返すという方法もありますが、やはり結婚式までに努力して貯金しておくのが一番いいですね。新生活がスタートすると、けっこうお金がかかるものですから、結婚式だけで貯金を使い切ってしまうのは避けたいところです。

そして、結婚はこれからのライフプランを考えるのに絶好のチャンスです。

「ライフプラン」って最近よく耳にするけど、具体的にどんなことをするの？と思われる方もいらっしゃるのでは？

長い人生の中では「節目」というものがありますね。結婚、子供の誕生、家の購入、子供の進学、子供の独立や就職、定年…等々。この人

- ・結婚 … 家族が2人になり、収入が増加？生活費が増加？
- ・子供の誕生 … 支出の増加
- ・家の購入 … 住居費の増減
- ・子供の進学 … 教育費の増加
- ・子供の就職や独立 … 子供に月々決まった収入(子供のライフプラン作りが必要になる)
- ・夫婦2人の生活になり、生活費が減少？
- ・定年 … 収入が減少、年金と貯蓄の生活

この節目は一人ひとり違います。結婚をする・しない、家は持家・借家、子供はいる・いない、収入は安定している・不安定、退職金はある・ない、年金は十分ある・不足する、またその時期も人それぞれです。

たとえば、何歳になったら家を買ひ、子供を何人育て、老後は旅行をたくさんしたいというプランを立てた場合、**何年後にどのくらいお金が必要かが見えてきます。そのプランを実行するために今からいくらの貯蓄が必要なのか、足りなければ資産運用が必要になるのか等お金の計画を立てやすくなるのです。**

こうして立てるお金の計画がマネープランです。このように、マネープランを作るためにはライフプランは欠かせないものなのです。このようなライフプラン・マネープランは自分で作ることも可能です。でも、その中から問題点を見つけ出して、解決策を考えたり、どうしたら希望が実現するかを考えるには、金融商品や保険商品の知識、頻繁に変わる制度、関係する法律、税金、年金のしくみなどなど、さまざまな事柄が関係してきて、その中から最適な選択をするとなると結構大変です。

ファイナンシャルプランナーは、幅広い知識から現状と希望をお聞きして問題点やそれに対する対策などを提案していきます。

万が一(10,000分の1)のときのマネープランが保険見直しなら、ライフプランニングは10,000分の9,999つまり家族が元気に過ごすためのマネープランというわけです。

夏休み、子どもに「計画的に宿題をすすめなさい！」と口をすっぱくして言っていたが、大人も計画を大切にしなきゃいけない